



自ら掴む経営エッセンス!

(記事: 渡部成夫 過去記事も読めます⇒<http://idoina.com>)

8/26(火)

テーマ:「病に教えられた心の在り方～葉7条疾病信号～」

13社13名

講師: (社)倫理研究所 副参事 大橋 良弘 氏



1. 77歳の時、3つの大病で気付いた

大橋良弘氏は、現在87歳。至って健康、副参事として北海道から沖縄まで講話をされ、美浜倫理は今回で4回目。奥様は参事の大橋慶子氏。倫理歴49年。後にも先にもずっと健康な大橋氏だが、77歳の時に3つの大病をされた。

一つ目の病は平成10年6月1日、背中にひどく嫌な張りを感じ、すぐに自分で救急車を呼び、近所の病院へ。心筋梗塞だった。退院前に全身検査をすると、今度は胆石が見つかる。12月には別の病で、1か月入院した。

2. 3つの不満・不安が原因だとわかった

日頃倫理で、「原因のない結果はない」と勉強している。大橋氏は倫理指導を受けながら、病気の原因を必死で探した。やはり原因があった。

一つは、夫婦の在り方に不満を感じていたこと。法人スーパーバイザーの奥様は、朝は3時に起きて出かけ、20時に帰宅する。食事も別々、一緒にいる時間がほとんどない状態が続いていたからだ。また、借金の返済が思うように進まなかったこと。さらに、町田市倫理法人会の再建のために73歳で現役復帰をしたが、年々ハードになっていき、終わりが見えなかったことだった。

退院して1か月後、法人局部長中西氏(現・局長)から、「法人局に移られた奥様と一緒に法人部門の手伝いをしてくれ」と頼まれて、ふと気が付く。

「人間、目標や希望を持っていないと、生活がいい加減になる」と、常々会員に言っていた自分が、3つの病で目標や希望を忘れてしまっていた。「よし、法人局での仕事を目標にしよう」と思った。

3. なぜ命を取られずに済んだのか?

77歳で3つの大病をして、なぜ命を取られずに済んだのか。いくつか考えられる。すぐに救急車を呼んだこと。たまたま送られた病院で、心臓専門の先生が当直にいてくれたこと。しかし、大橋氏はここで、倫理入会当時のことを思い出す。

第二次大戦中、スマトラで5年間従軍していた大橋氏は、本当に命を失う瀬戸際の局面に25回は遭ったという。終戦後、昭和34年に倫理に入会した時、それを得意気に話した大橋氏は、ある講師に「あんたの力じゃないよ。先祖の徳というものがある」と怒られたことがあった。先祖を調べてみると確かに、村のために尽くしたり、よく働いた先祖が多く、母が途絶えそうになった家系を救っていたことも知った。

「今回病で助かったのも先祖の徳」と、感謝した。同時に、今まで倫理を会員のためにと一生懸命にやってきて、倫理の勉強を卒業した気になっていたことに、気付いた。「実践が足りなかった。徹底して倫理活動をしよう」と打ち込んで、今がある。

4. 実践で大切なのは、感謝。継続は天に誓う。

色々なことが当たり前を感じるというのは駄目だ。世の中は全てが感謝。大橋氏は明け方まだ暗いうちから外に出て、日の出に感謝の挨拶を続けている。また、夫婦仲良くすることも、大きな倫理の実践の一つだ。そして、「破約失福」、決められたことは必ず守ることだ。

大橋氏は、三日坊主にならず実践が継続するよう、天にお願いをした。天は、良い行いも悪い行いも全て見ている。天に誓えば、間違いはないと思った。病気をした77歳から10年が経ち、今元気なもの、10年間実践できてきたのも、皆与えられた力だと感じている。87歳でも、一人でどこにでも行ける完全な健康体。大橋氏は、「これは倫理の実践のおかげとしか考えられない。倫理の偉大さを感じている」という。次回は「運命の分かれ道」というテーマでお話しくさるとのこと。次回も楽しみだ。

次回 第892回MS! 9/2(火)6時~7時+朝食会 ホテルニューオータニ幕張(043-297-7777)

テーマ 「写真は心の反射鏡」

講師 香取市倫理法人会 幹事 竹林 克夫 氏

できるできるやればできる!

明るく楽しくなければ倫理じゃない!
・会員120社・MS30名以上・美浜を美しく